

## 通 勤 電 車

内 藤 博 夫

寺田寅彦の随筆に「電車の混雑に就て」というのがある。随筆といっても東京市電の停留所付近で5分間ごとの電車の通過数を観測し、その結果を分析したりしてるユニークな作品である。市電の混み具合は周期的に変化し、混んだ電車は停車するたびにますます混んできくる。したがって満員電車を避けなければ、とにかく最初に来る電車に乗るという性急さを改めればよい。わずかの待ち時間でほどよい混み具合の電車に乗ることができる。この原理を人生に応用すれば、あわてずあせらず、ゆとりを持ってということになる — ざっとこのようなことが書かれてある。残念なことに現在都電は廃止されつつあるので寅彦のすすめを試してみることは簡単にはできなくなった。

市電(都電)にかぎらず交通機関の混雑には閉口させられるものである。通勤では国電中央線の八王子～お茶の水間を利用しているがラッシュ時の混雑はまことにすさまじい。それでもわれわれのような職業をもつ者には時差出勤があるていど可能なので朝は何んとかなるが、帰宅時にはそうはいかない。午後5時以降にお茶の水駅で乗車した場合、坐れることは不可能であるばかりでなく、吊革につかまることすら容易でないこともしばしばである。電車の中で読書といわないまでも、もみくちゃにされないためにはどうしたらよいだろうか。これまでの体験からお茶の水駅でもっとも混む電車は八王子駅に停車する唯一の電車である高尾行きであり、終点が八王子駅よりも手前(東京寄り)の電車は、その終点が東京寄りであればあるほど既して混まないことがわかってきた。そこでお茶の水駅に入ってきた電車が八王子駅より手前の駅を終点とする電車であっても先づそれに乗り込みその終点で下車して高尾行きに乗り継ぐという方法をとるようになった。どの電車でも終点に近づけばすいてくるものである。この方法をとれば乗車の際の混雑をさけることができるばかりでなく、混雑する区間および時間を縮めることもできる。もちろん高尾行きがすいていればそれに乗る。要は、高尾行きにこだわらずに、混み具合によって電車を選択するということである。寅彦が下した結論は中央線を利用する場合にもあてはまるようである。いずれにせよ、このような苦勞から一日も早く解放されたいものである。